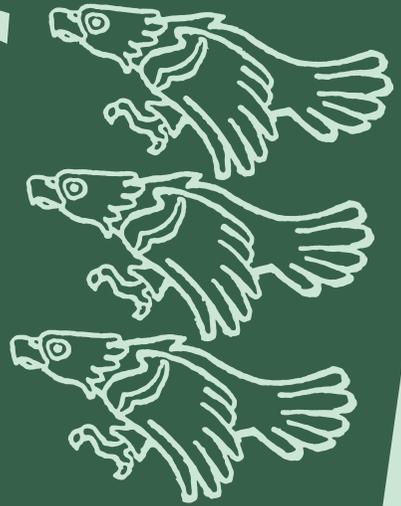


ホ  
ー  
ト  
ク  
ラ  
ス  
イ

**昨**年末にNHK総合テレビで放映されたスタジオジブリの最新作「アーヤと魔女」をご覧になりましたでしょうか。原作は英国の作家ダイアナ・ウィン・ジョーンズの『アーヤと魔女』（徳間書店）です。赤ん坊の頃に施設に預けられたアーヤ。親はいなくても、みんなが自分の思い通りに動いてくれる生活を気に入っていたのに、ある時、変な2人組に引き取られることに……。宮崎駿監督のおすすめの1冊であり、図書室でも紹介してきました。

春に向けて劇場公開が決まりましたが、この「アーヤと魔女」をもっともっと知ってもらい、楽しんでもらおうと、原作本は元より人形劇や展示など、館内のあちこちで紹介しています。

現在の入館者数は通常の半分以下。今ならできるとは何かと考え、期間限定ではありますが、人形劇の上演を行いました。コロナ禍での生活が続く中、今までとは違った発見や過ごし方ができるように工夫していけたらと思います。

季刊トライホークス 2021年 | 62号

発行日……2021年3月1日 | 発行人……中島清文

発行所……徳間記念アニメーション文化財団

東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 机ちひろ | デザイン……川島弘世

印刷……図書印刷株式会社 | 非売品

## 本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。

トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にさせていただいたら嬉しいです。

### オタバリの少年探偵たち

**第**2次世界大戦が終わったイギリスのオタバリでは、少年たちが毎日「ガレキ場」に集まって戦争ごっこをしていました。トピー隊とテッド隊が激しい戦いを繰り広げるなか、ある日ニックが窓ガラスを割ってしまいます。両隊は戦いをやめて同盟を結び、仲間のためにガラス代を稼ぐことにしました。窓ふき、靴磨き、合唱隊など、みんなで知恵を絞ってお金を稼ぎますが、テッドの預かったお金が忽然と消えてしまいます。一体どうして？ 犯人を捜していくうちに、少年たちが見つけたのは……。

どんどん進む物語は読者を引き込み、発端となったお金の盗難事件は、その裏に潜む大犯罪へとつながります。敵のアジトに足を踏み入れピンチに陥った少年たちは、弱いようでたくましく、逆に悪者たちを追い詰めていくさまが痛快で、アーディゾーニの絵が、少年たちの活躍する雰囲気伝えていきます。

私たちの周りにもいる、子どもから少年へと移ろう10代前半くらいの男の子たちが遊ぶ姿は、どこか危なっかしく不安を誘います。しかし実はどっこい、この少年たちのように、素直な感情をぶつけあい、協力しあいながら問題を乗り越えているときもあり、たのもしかったりします。少年たちの持つ健やかさが描かれた本書は、展開がおもしろく、結末では晴れやかな気分になれました。家で過ごす時間が多い今、手に取ってみたいはいかがでしょうか。

#### オタバリの少年探偵たち

セント・アイルイス作  
国 明子訳



#### オタバリの少年探偵たち

著者…セント・アイルイス

訳者…脇 明子

岩波少年文庫 680円



# 蜂飼 耳

Mimi Hachikai

## 夢中になって読んだ本

今回は詩人の蜂飼耳さんに本を紹介していただきました。取り上げられたのは『クラブパート』。長年図書館で紹介してきた本でもあり、同じ本が選ばれたという嬉しさとともに、本の魅力を再発見することもできました。蜂飼さんが翻訳され、今や図書館の定番となっている絵本『くるみわりにんぎょう』や『みつばちさんと花のたね』（徳間書店）とともに、この機会に手に取っていただきたいと思います。

\* \* \* \* \*

子どものころ、最寄りの駅のすぐそばに本屋があった。いま考えると、その店舗の大きさにしては、児童書のコーナーがかなり充実していた。天井までの棚がいくつかあり、子どもの読者たちを待っていた。未知の本がぎっしりと詰まった棚の前で過ごす時間は特別なものだった。背伸びして棚の上のほうを眺めたり、新しく置かれた本を、どきどきしながら手に取って、ページをめくってみたりした。

その本屋でどれだけの大切な本と出会ったか、数え切れない。とくに、小学生のころの私の読書は、学校の図書館や町の図書館の他、その本屋によって支えられていたのだと、いまになってよくわかる。

そこで出会った本の一つが、オトフリート・プロイスラー『クラブパート』だった。まず、人間の頭と鳥の体を持つ存在が描かれたカバーが目をついた。その絵は、本を開いてみると表から裏へ、ぐるりとひと続きになっていて、色合いもすてきだった。ページをめくってみると、ところどころに挟まれた挿絵も好みだった。

タイトルだけでは何のことかわからない。カバーの袖のところに、少年クラブパートと書かれていて、それが名前だとわかる。面白そう。母に買ってもらった。いまも手元に持っているその本の奥

付を見ると、1986年2月改訂版1刷とあるので、5年生の終わりの時期か、あるいは6年生になってから手にしたのだろう。

読み始めると、どんどん引き込まれたことを覚えている。初めのほうを読んだだけで、好きな本の中でもとりわけ好きな一冊になりそうな予感があった。コーゼル湿地の水車場に辿り着いたクラブパートは、厳しい親方のもと、見習としてそこで働くことになる。親方は質問する。「それで、おまえはわしからなにをなりたい？ 製粉の仕事か、それとも、ほかのすべてもか？」と。クラブパートは「ほかのすべてもです」と答える。すべて、って何だろう、と読者は思わずにいられない。期待は膨らむ。

水車場には寝食をともにして働く職人たちがいる。職人はクラブパートの他に11人いる。製粉機は音を立てて粉をひき続ける。麦を運んだり、粉をふるったり、薪を割ったり、水を運んだり、来る日も来る日も、しなければならぬ仕事は山ほどある。職人頭のトンダ、ミヒャル、メルテン、ユーロー、リュシュコー、ハンツォー、ローボシュなど、それぞれの人物像が描き出されていて、いま読み返しても、とても魅力的だ。

魔法を使う恐ろしい親方、大みそかの晩に職人のうちの誰か一人が決まって命を落とす謎、粉屋

の職人であると同時に誰もが恐れる魔法の使い手でもあるデカ帽という人物、やがてクラバートと想いを交わし、物語の終盤の展開を導くことになる一人の娘。全体的にどこか重苦しく、翳りのある世界だが、ぞくぞくさせる力強さと、物語の厚みともいうべきものが確かにあって、激しく心を揺さぶる。

初めてこの本を読んだとき、あれ、と不思議に思ったことがある。作者は、プロイスラー。『大どろぼうホッツェンプロッツ』と同じ人だ。少年カスパールとゼッペルが活躍する、あのおかしな面白い物語と、本当に同じ作者が書いたのだろうか。『大どろぼうホッツェンプロッツ』と『クラバート』とでは作品の雰囲気がいまにも違ふ、と驚いたことを覚えている。

記憶を辿ると『大どろぼうホッツェンプロッツ』は最初、小学校の体育館でおこなわれた人形劇で知ったのだ。どこかの人形劇団が学校に呼ばれて上演されたのだった。その後、学校の図書室で改めて本を探して読んだのだったと思う。孫のカスパールがおばあさんに誕生日プレゼントとして贈った、歌を演奏するコーヒーひきというのが印象的だった。プラムケーキやコショウ入りソーセージなど、食べ物もおいしそうで、想像は膨らんだ。

さて、『クラバート』の物語としての厚みはどこから来るのだろうか。その一部はおそらく、伝承された物語としての要素から来るのではないか。この物語の根底には、ドイツ東南部からポーラン

ド西南端にかけての地域、ラウジッツ地方に伝わる〈クラバート伝説〉があるそうだ。スラブ系のヴェンド人の伝説だ。作者プロイスラーは、子どものころにその伝説をドイツ語訳で読み、深く心を動かされたという。その意味で、作者による翻案的な部分を加えるかたちで書かれた『クラバート』は、プロイスラー自身が子どものころに体験した読書をいきいきと反映する作品でもあるといえるのだ。本を読んだ子どもが、それに感動して、やがて本を書く。そこには、子どものころの読書によってもたらされた感動や喜びが映し出されている。本が本を呼び、繋がりがまた次の繋がりを生み出す。『クラバート』は、時間を超えて、そのような読書の豊かさを伝える。私にとって大切な一冊だ。

ほちかいみみ

1974年神奈川県生まれ。詩人、立教大学文学部教授。詩集に『現代詩文庫 蜂飼耳詩集』、『顔をあらう水』など、文集に『孔雀の羽の目がみてる』『空席日誌』など、書評集に『朝毎読』がある。童話集に『のろのろひつじとせかせかひつじ』『クリーニングのももやます』など、絵本に『うきわねこ』『ゆきがふる』（絵／牧野千穂）などがある。また、翻訳絵本にアリソン・ジェイの絵本『くるみわりになぎょう』『きのうをみつきたい!』などがある。

トライ  
ホークス  
の本

みつばちさんと花のたね  
作・絵…アリソン・ジェイ  
文…蜂飼 耳 徳間書店 1,700円



[ ..... 夢中になって読んだ本 ..... ]



クラバート  
著者…オトフリート・プロイスラー  
訳者…中村浩三  
偕成社 1,600円



ね、おはなしよんで  
編著…与田準一、川崎大治、乾 孝  
童心社 2,000円



クローディアの秘密  
著者…E. L. カニグズバーグ  
訳者…松永ふみ子  
岩波少年文庫 680円



風と木の歌  
少年少女短編名作選  
著者…安房直子  
実業の日本社 絶版  
\*現在は偕成社文庫から刊行されています。

- ◆大どろぼうホッツェンプロッツ  
著者…オトフリート・プロイスラー  
訳者…中村浩三 偕成社 1,000円
- ◆おいしいれのぼうけん  
作…ふるたたるひ、たばたせいいち  
童心社 1,300円
- ◆あかいろの童話集  
改訂版ラング世界童話全集8  
作…ラング 編訳…川端康成、野上 彰  
偕成社文庫 800円
- ◆ユリアと魔法の都  
著者…辻 邦生 筑摩書房 品切重版未定
- ◆新編 銀河鉄道の夜  
著者…宮沢賢治 新潮文庫 430円
- ◆ブルッキーのひつじ  
作…M. B. ゴフスタイン 訳…谷川俊太郎  
ジー・シー・プレス 1,100円

[連載……第3回] 清水真砂子さんと読む『ゲド戦記』  
ル＝グウィン、第4巻『帰還』を語る

**本**紙前号に私は、ル＝グウィンに直接手紙を書いたのは第4巻の『帰還』訳了後のことだったと書いたが、そのきっかけを作ってくれたのはフィリパ・ピアスだった。1993年の年明け、夫の仕事についてパリに出掛け、1週間後ロンドン北部ゴールドズ・グリーンに借りたフラットに戻ってくると、大きな封書が届いていた。差出人は作家のジル・ペイトン・ウォルシュ。封を切ると出てきたのはル＝グウィンの講演録で、前年の92年夏オックスフォード大学の某会議に招かれて、『帰還―ゲド戦記 最後の書』(岩波少年文庫版では『帰還 ゲド戦記4』となっている)について語ったものだった\*。フィリパ・ピアスの依頼で送るとのジルの言葉が添えられている。私が翻訳していることをピアスさんは心にとめおいてくれたのだった。

が、旅の荷も解かずル＝グウィンの講演録を読み始めた私は、気がつくやうに、ひとりつぶやいていた。「ル＝グウィンともあろう作家が、どうしてこんなつまらない批判に、いちいちむきになって反論するの？ こんなに成熟したフェミニズムの文学が今までにあった？ あなたが反論を試みている相手の自称フェミニストたちのなんとという粗さ！ なんとという硬直ぶり！ あなたのフェミニズムはこんなにも日々の暮らしに根づき、きめ細かく、他者を、とりわけ弱い立場の人たちを抱擁し、かつ、互いにりと向かい合うものになっているのに！」

私はその日のうちに、アメリカはポートランドのル＝グウィンに直に手紙を書いた。アーシュラからはすぐに返事が来た。私たちの距離を一挙に縮めるものだった。そうか、私たちは太平洋をはさんで、そうとは意識せず、同じ問題にぶつかり、日常の暮らしのなかでゆっくりゆっくり考え続けてきていたのだ。

それから10年後の2003年8月10日昼前、ポートランドに招かれ、予約しておいてくださったホテルのロビーで抱擁をかわす私たちを眼前にすることになった夫は今も言う。「初対面とはとても思えなかった。何年来の友人のようだった。」と。(そう、本当にそうだった。)と私は思い、アーシュラのスカートのすそに見えた、きゅっとしまった美しい足首をくりかえし思い出す。

が、アメリカでそうだったように、日本でも第4巻『帰還』は不評だった。読者はなお、“勇者”、を求め、“冒険”を求めていたのだろうか。幼くしてレイプされ、火にほうりこまれて、処女性も容貌も、およそこの社会で女性の“売

りもの”になるものは、ことごとく奪われたテルー。第1巻のゲドの登場に早くも英語圏で起こったこの主人公の肌の色に対する違和の声こそ、日本では私の知る限りほとんど聞かれなかったが、一方は大賢人、一方は大巫女の二人がどんな権力からも遠ざかって、ごくごく普通の、どこにでもいそうな夫婦になり――テナーは前夫との間に「育てそこねた」息子もいる――そんなテルーを育てていく話だもの。たしかに活劇を期待した読者には落胆のほか、なかったかもしれない。ル＝グウィン自身は後に1巻から3巻を「ヤング・アダルト三部作」、4巻以降を「シニア・アダルト三部作」と呼んでいる。(評論集『いまファンタジーにできること』p165. 谷垣暁美訳 河出書房新社2011年刊)。

だが、もちろん日本の読者だって、血気にはやる若者や、出産・子育てや家事を女に課せられた重荷とのみ受け止めて押し返そうとする戦闘的な“フェミニスト”ばかりではなかった。一方では「これは定年退職後の私たちのための本」という声が訳者の私のもとにも少しずつ届き始めた。それは今も続いている。

ただし、まずは訳書のシリーズ名が結果として多くの人々に印象づけてしまったこのシリーズの印象をひっくり返すところまでは、まだいってはいないように思う。訳者の私はと言えば、すでに他所でも書いたが、とりわけ第4巻は地雷の埋まった原を行く用心深さが求められた。いたる所で私自身の“フェミニズム度”が試された。テナーが息子に食後の皿洗いをうながす場面で「ゲドだってしてくれるのよ。」と訳しかけて、私ははっとペンをとめた。「してくる」とはなんだ!! 私は自分自身がこの社会を生きてきてべったりと身につけた価値観の検討をたえまなく迫られた。それはこの翻訳の仕事が私にくれた数ある豊かなプレゼントのひとつだった。

\*……1992年8月のオックスフォード大学でのル＝グウィンのスピーチ“Earthsea Revised”は「『ゲド戦記』を生きなおす」というタイトルのもと『へるめす』第45号(岩波書店1993年9月8日発行 清水真砂子訳)に全文が掲載されている。



帰還 ゲド戦記4

著者…アーシュラ・K.ル＝グウィン  
訳者…清水真砂子  
岩波少年文庫 760円

(児童文学者・翻訳家  
清水真砂子)